

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 北九州市 】

学校名【 尾倉中学校 】

1 実践テーマ	①・II・③・IV・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒 1学年：66名 2学年：49名 3学年：56名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名（ 総合 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを使って生活する苦勞や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。 ・リオパラリンピック日本代表(女子ダブルス4位)二條実穂選手の体験談を聞いたり、競技用車いすの使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。 ・
5 取組内容	<p>二條選手の講演（45分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生い立ちや競技歴 ・車いす生活になった話 ・車いすテニスを始めたきっかけ ・パラリンピックの話 <p>日常用車いすと競技用車いすの違いについて</p> <p>競技用車いす体験学習（20分）</p>



全生徒が1回づつ車いすに乗り
体育館の半分を一往復

カラーコーンを設置してコーンで
ターンして戻る

車いすテニス体験学習（10分）
体験者：ソフトテニス部



手で投げたボールを打つ。一人5球程度。
二條選手によるデモンストレーション（5分）

質疑応答



6 主な成果

- 今回の講演会や体験学習でパラリンピックの存在を知り、また講演を聞くことでパラリンピックに興味をもつ生徒が増えたようだ。
- 「街中でも困っている車いすの方がいたら積極的に声をかけていきたい」という声も多く聞かれた。
- ハンディキャップがあっても夢をかなえたり、夢に向かって努力している方の話を聞き、自分自身も目標に向かって努力することの大切さを感じたようだ。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- 本校は全校生徒177名と規模が小さいため全生徒に競技用車いすの乗車体験活動を行った。感染症予防には細心の注意を払って実施したが全生徒が体験をすることができたことは非常に良い刺激になったようだ。

<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 予算の問題が非常に重要な課題である。今回は東京から講師を招聘したが、謝金や交通費を考えると赤字になる。しかし数校で声を掛け合って交通費を折半するなどして赤字をクリアすることができた。 • ただ単に努力をしてオリ・パラに参加した選手ではなく共生社会を実現していくための取組や SDGs の取組として行っている、インクルーシブな社会の構築につなげていきたい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今回と同じように、オリンピックやパラリンピアンを招聘した講演会や体験会を予定している。地域にいるアスリートを招聘できたらと考えている。